

早稲田大学 文学部 英語 講評

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	90分
特徴・その他	大問5題は昨年と同じ。全体的に分量は昨年並み。レベルはやや易化か。Iの語(句)補充問題はよくある設問形式で、例年単語・熟語、文法、前後の対応関係などいろいろな知識、分析力が必要なのだが、今年度はほとんど内容から判断させるものであった。少しずつ傾向が変わってきているのかもしれない。昨年はここの選択肢が大幅に難しくなったが、今年度は昨年ほどではなかった。IIIの脱文挿入問題は差がつく大問だ。数年前までと比べるとやさしくなったといえども、結構迷ってしまう。空所が7つで選択肢が8つなので、1箇所間違えば他の箇所も間違える可能性が大いにある。ただ、ここは時間をかけてでも正答率を上げないといけない大問だ。IVの会話文問題も熟語表現がやや難しく、意外と大変な大問だ。ただ、今年度の文化構想学部の会話文問題ほどの難しさはなかった。Vの要約問題は変更されてから同じ設問形式だ。出だしが書かれていて、そのあとを4～10語で書き加えさせる形式だ。全体としては65%弱程度が合格最低点の目標と考えていいのではないと思われる。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	語(句)補充問題	分量は昨年並み。レベルは選択肢の難語が昨年より減った分少し楽だったのではないか。ただ、insinuated, periphery, finitude, eviction, reverie, incidental, redundant, sadistic, abominable, commensurateなどはかなり難しい。昨年の文学部のこの選択肢は過去一番難しかったと思われるが、今年度はそこまでではなかった。今年度の選択肢は内容から判断するのがほぼすべてであったが、3は直前のasが限定を表しas forgedがthe selfにかかるのがわかるかどうか? 「構築される自己」となる。7はconvince A that S' V~のような語法がポイント。8はdistinctionが「区別」ではなく「卓越、優秀さ」の意味。10は前後にasがあるが、比較のasとは違う特殊なas。比較にこだわってしまうと正解を導けないかもしれない。13は空所の後ろにあるfleetの意味が分かれば簡単。正解を導く手がかりは当然内容なのだが、それに付随して文法なども入ってくる意識を持とう!	やや難
II	内容一致問題	分量、レベルとも昨年並み。英文の難易度はそれほど高くなく、設問もそれほど紛らわしいものはなかった。本文を読む前にリード文を先に読み、何が問われているのかをしっかりと把握したうえで読むようにしよう。正解率も重要だが、ここはとにかく速く読み、短い時間で高得点を稼ぐかがポイントとなりそうだ。(B)が解きにくかったが、特に18はわかりにくい。 <u>Shakespeare's company</u> ~started doing darker, edgier productions... According to the passage, <u>Shakespeare's works produced</u> during the plague (d) tended to be more controversial and somber. 単語が難しいのでこれが正解だと確信は持てないと思われるが、比較級は重要だ。比較級をそれ以外で書き換えるのは困難だからだ。	標準

番号	出題内容	コメント	難易度
III	脱文挿入問題	<p>分量は昨年並み。昨年は小説風の文章だったので、前後文脈が論理から判断できないことがあり、やや解きにくかったが、今年度は評論文でそこまで難しくはなかったと思われる。空所の前後と選択肢にどの程度ヒントがあるのか？ 最終的には内容から判断することになるだろうが、手がかりを押さえることは重要だ。たとえば、(25)の後ろにはItがある。(28)の前にはturned this upside down「このことをひっくり返した」とある。この前後は反対の内容なのであろう。(29)は後ろに either way とある。either は2つが対象なので空所は何か2つあることになる。(30)は直後に In the end がある。この表現は因果関係を表すことがある。選択肢の(a)は For example が見える。抽象→具象の関係を表すわけだが、イコールの意識を持つことも重要だ。手がかりはなくても同じ内容を繰り返すことがあることも意識しよう。</p> <p>(b) He argued that society does well <u>when</u> people act in their own self-interest. Instead of trying to be nice all the time, <u>do what's best for you</u> <u>and</u> in the end more people will benefit.</p> <p>同じようなことを言っているのを確認してほしい。ちなみに、andは「そうすれば」の意味。</p>	やや難
IV	会話文問題	<p>分量は多くなったがレベルは昨年並みか。簡単な単語が並んでいるだけの選択肢だが、意外とこれが難しいことがある。各選択肢の品詞がかなり違うので、内容を考える前にそこを押さえることが重要だ。今年度に関しては文化構想学部の会話文問題のレベルとかなりの相違。こちらはそれほど難しくなかったが、文化構想学部の狙われた表現は難しいものばかりであった。by virtue of～、on the other hand、no matter how あたりは基本。asked about と inquired of it のどちらを選ぶかは少し迷うかもしれない。</p>	やや易
V	要約問題	<p>200語程度の英文を一文の英語で要約させる問題。文化構想学部同様、英文の出だしがすでに書かれていて、そのあとに続けて4～10語の英語を書かせる形式。書くべき内容はかなり限定されそう。in your own words であることも忘れないように！ また、Do not use three or more consecutive words from this page は絶対条件だ。今回は第12文(You have...)と第13文(If you're...)をうまくまとめる。have to と need to は筆者の主張を表す可能性のある表現だ。ディスコースマーカーを押さえる。文学部と文化構想学部の要約問題はピンポイントの意識を持つようにしよう！ また、減点されないためにはできる限り簡単に書くことを心がけよう。難しい語彙や難しい文法などを使っても何の得にもならないと考えたほうがいい。</p>	標準